福岡県、熊本県、長崎県、３県企業の景況感

ふくおかフィナンシャルグループでは、福岡県、熊本県、長崎県における経済の現状及び今後の見通しを把握するため、３県の企業を対象とした「企業動向調査アンケート」を実施いたしました。今回の調査では、「企業の景況感」と「原油価格・原材料価格高騰の影響」の２つについて調査しました。今月号では、「企業の景況感」についてお知らせし、「原油価格・原材料価格高騰の影響」については、11月号にてご紹介します。

【調査の概要】

１．調査の対象
⑴福岡県、熊本県、長崎県の３県に所在する企業。
⑵各県の業種別構成比を基に無作為抽出
・福岡県1,001社（回答企業293社、回収率29.3%）
・熊本県502社（回答企業122社、回収率24.3%）
・長崎県645社（回答企業353社、回収率54.7%）

２．調査時点：2008年７月中旬～８月中旬

３．調査方法
⑴調査対象期間
2008年４～６月期：実績、７～９月期：見込み、10～12月期：予想
⑵分析方法
各期について、前年同期と比較して業況が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた指数（ＢＳＩ［**B**usiness **S**urvey **I**ndex］）を基に経済動向を予測。
⑶その他
福岡県及び熊本県の企業に対する調査は今回が始めての調査であるため、2008年１～３月期以前のデータはありません。

【調査結果の概要（産業天気図）】

		2008年４～６月期（実績）		2008年７～９月期（見込み）		2008年10～12月期（予想）	
		業況	ＢＳＩ	業況	ＢＳＩ	業況	ＢＳＩ
福岡県	全産業		▲17		▲21		▲26
	製造業		▲９		▲20		▲30
	非製造業		▲22		▲22		▲24
熊本県	全産業		▲10		▲25		▲29
	製造業		▲６		▲26		▲22
	非製造業		▲13		▲25		▲35
長崎県	全産業		▲26		▲30		▲25
	製造業		▲19		▲23		▲17
	非製造業		▲29		▲34		▲30

天気	業況ＢＳＩ
	50以上～100
	25以上～50未満
	０以上～25未満
	▲25以上～０未満
	▲50以上～▲25未満
	▲100～▲50未満

１．福岡県内企業の景況感

福岡県内企業では、製造業で化学・石油製品や輸送用機械等、一部ではプラス実績となっているものの、非製造業で原油価格の高騰や原材料価格上昇等の影響により全業種でマイナス実績となるなど、製造業、非製造業間で景況感に格差が見られた。

福岡県内企業の景況感を、業況ＢＳＩを基にみると、全産業ベースで４～６月期実績▲17となりました。

製造業と非製造業とに分けてみると、製造業全体では同▲９となりましたが、業種別にみると、化学・石油製品では大幅なプラス実績となっている他、一般機械や輸送用機械などでもまずまずの水準となっています。しかし、生コンや金属製品、電子部品・電気機械などでは、マイナス幅が大きく、製造業全体では厳しい状態にあるようです。

一方、非製造業は、全業種でマイナス実績となっており、同▲22と、製造業と比べて10ポイント超の大きな格差があります。非製造業を業種別にみると、ホテル・旅館業やサービス業などでは大幅なマイナス実績となっています。原油価格の高騰が経営に大きな影響を及ぼしているものと考えられる運輸・倉庫業ですが、４～６月期時点では他業種と比べて小幅なマイナス実績となっています。

先行きの景況感については、製造業で４～６月期以降▲９→▲20→▲30とマイナス幅が拡大する一方、非製造業では同▲22→▲22→▲24と、低水準かつ横ばいの推移となる見込みです。そのため、全産業ベースでは同▲17→▲21→▲26と、製造業が全体を押し下げる形でマイナス幅が拡大する見込みです。

このように、４～６月期における県内企業の景況感は、製造業、非製造業ともにマイナス実績ながらも、両業種間の実績水準には格差がみられました。しかし、７～９月期以降は、非製造業で横ばいの推移となる中、製造業のマイナス幅が大きく拡大する見込みであり、全産業ベースの景況感は、先行き厳しさが増すものと判断されます。

福岡県の回答企業の業種別構成

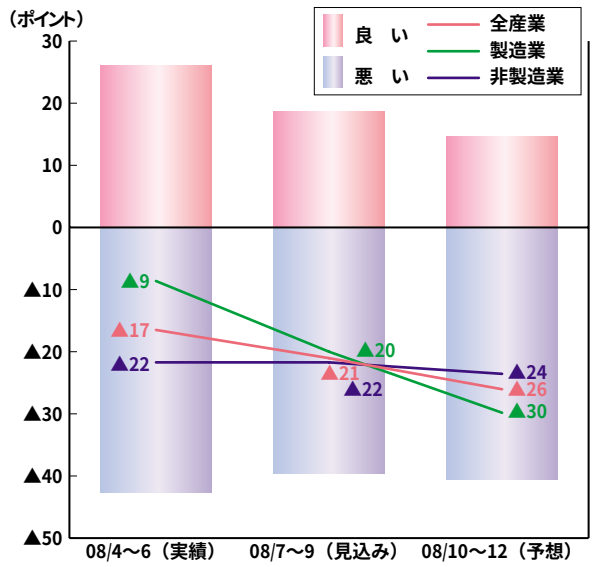
業種	企業数	構成比(%)
製造業	118	40.3
食料品	19	6.5
化学・石油製品	9	3.1
生コン	15	5.1
鉄鋼・非鉄	18	6.1
金属製品	13	4.4
一般機械	16	5.5
電子部品・電気機械	19	6.5
輸送用機械	9	3.1
非製造業	175	59.7
建設業	61	20.8
卸売業	34	11.6
小売業	32	10.9
不動産業	15	5.1
運輸・倉庫業	14	4.8
ホテル・旅館業	6	2.0
サービス業	13	4.4
合計	293	100.0

業種別にみた業況ＢＳＩの特徴

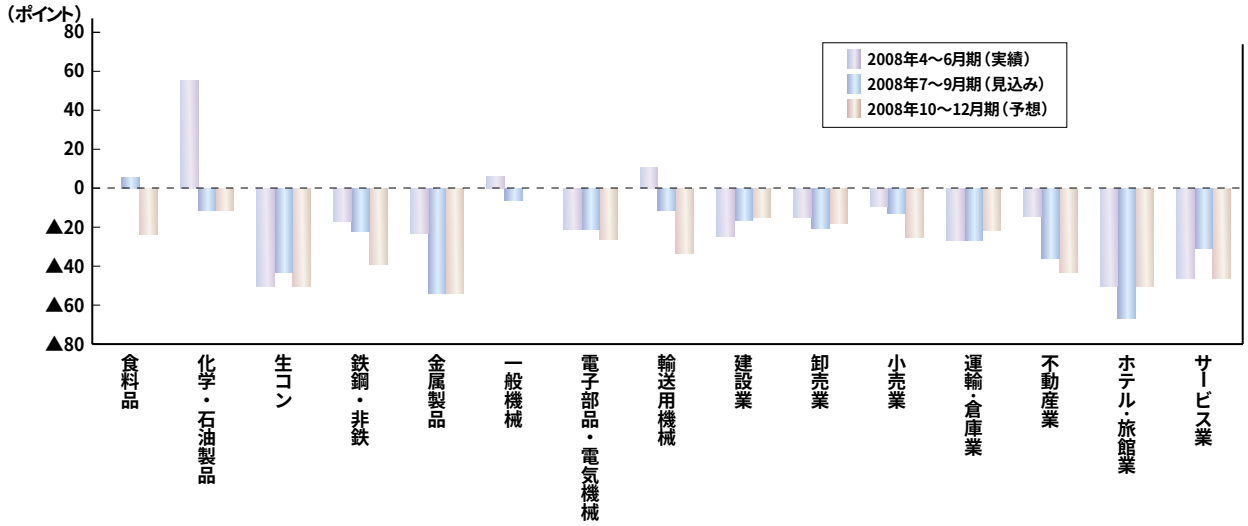
＜製造業＞

製造業の主な業種について４～６月期の実績をみると、化学・石油製品は56と高水準にあります。７～９月期以降は▲11→▲11と、原油価格高騰の影響等によりマイナスへ転じる見込みです。輸送用機械は11と小幅ながらプラス水準となっています。しかし、７～９月期以降は▲11→▲33と、受注量の減少等により大幅に悪化しマイナスへ転じる見込みです。一般機械は６とプラス実績となりましたが、受注状況の不安

福岡県内企業の業況ＢＳＩの推移



福岡県内企業の業種別業況ＢＳＩの状況



定さから、７～９月期以降は▲６→±０と、一進一退で推移する見込みです。鉄鋼・非鉄や金属製品は、原材料費の高騰等により、それぞれ▲17、▲23と共にマイナス実績となっています。７～９月期以降も、鉄鋼・非鉄で▲22→▲39、金属製品で▲54→▲54と、先行き一層厳しさが増す見込みです。電子部品・電気機械は、売上高の減少や材料・仕入れ価格の高騰等により、４～６月期以降▲21→▲21→▲26と、低水準で推移する見込みです。

＜非製造業＞

非製造業の主な業種について４～６月期の実績をみると、建設業は、受注低迷による操業度の低下等により▲25となりました。７～９月期以降は▲16→▲15と、先行き幾分厳しさが和らぐ見込みです。卸売業及び小売業は、物価上昇により売上はやや上昇しているものの、仕入れ価格の上昇分を賄えておらず採算は悪化しています。そのため、４～６月期以降、それぞれ▲15→▲21→▲18、▲９→▲13→▲25と、共に低水準で推移する見込みです。運輸・倉庫業は、４～６月期実績では▲14となっていますが、今後、原油価格高騰等による更なる採算悪化を見込んでおり、７～９月期以降▲36→▲43と、先行き厳しさが増す見込みです。ホテル・旅館業では、４～６月期以降▲50→▲67→▲50と、宿泊客の減少による稼働率の悪化等により、非常に厳しい状態が続く見込みです。

２．熊本県内企業の景況感

熊本県内企業では、製造業の化学・石油製品や電子部品・電気機械等、非製造業の建設業や卸売業でプラス実績となる一方、生コンや一般機械、小売業、不動産業等で大幅なマイナス実績となるなど、業種間で明暗が分かれる結果となった。

熊本県内企業の景況感を、業況ＢＳＩを基にみると、全産業ベースで４～６月期実績▲10となりました。

製造業と非製造業とに分けてみると、製造業は同▲６となりました。製造業を業種別にみると、化学・石油製品や電子部品・電気機械の他、高操業が続く輸送用機械では大幅なプラス実績となっています。しかし、生コンをはじめ、一般機械や金属製品などのマイナス幅が大きく、製造業全体では小幅ながらマイナス実績となっています。

一方、非製造業は、同▲13となりました。非製造業を業種別にみると、卸売業で大幅なプラス実績となった他、建設業でもプラス実績となっています。しかし、小売業、ホテル・旅館業、サービス業のマイナス幅が大きく、非製造業全体ではマイナス実績となっています。

先行きの景況感については、プラス実績の業種が大幅に減少し、製造業で４～６月期以降▲６→▲26→▲22、非製造業で同▲13→▲25→▲35と、製造業、非製造業共に大幅に悪化する見

込みです。そのため、全産業ベースでも同▲10→▲25→▲29と大幅に悪化する見込みです。

このように、４～６月期における県内企業の景況感は、製造業、非製造業ともにマイナス実績となりましたが、両業種を構成するそれぞれの各業種間では実績水準に大きな格差がみられました。また、７～９月期以降については、製造業、非製造業に関わらずマイナス幅が拡大もしくはマイナスへ転じる業種が増加する見込みであり、全産業ベースの景況感は、先行き多くの業種に減速感が広がるとともに、一層厳しさが増すものと判断されます。

業種別にみた業況ＢＳＩの特徴

＜製造業＞

製造業の主な業種について４～６月期の実績をみると、化学・石油製品は80となっており、原油価格高騰分の価格転嫁が進み売上高も高水準にあります。７～９月期以降は40→20と、先行きプラス幅が縮小する見込みです。電子部品・電気機械は、売上高の増加等により50となっています。しかし、７～９月期以降▲25→▲50と、受注量の減少や過剰在庫による資金繰りの逼迫等により大きくマイナス幅が拡大する見込みです。輸送用機械は38となりましたが、７～９月期以降は▲25→▲38と、受注量の減少により操業度も低下し、伴ってマイナス幅も拡大する見込みです。一般機械は、売上高の減少等で▲50と大幅なマイナス実績となりました。７～９月期以降は▲42→±０と、受注量の回復に伴い先行き改善する見込みです。食料品は、原材料費の高騰による採算悪化等により▲13となっています。７～９月期以降▲25→▲38と、先行き一段と厳しさが増す見込みです。

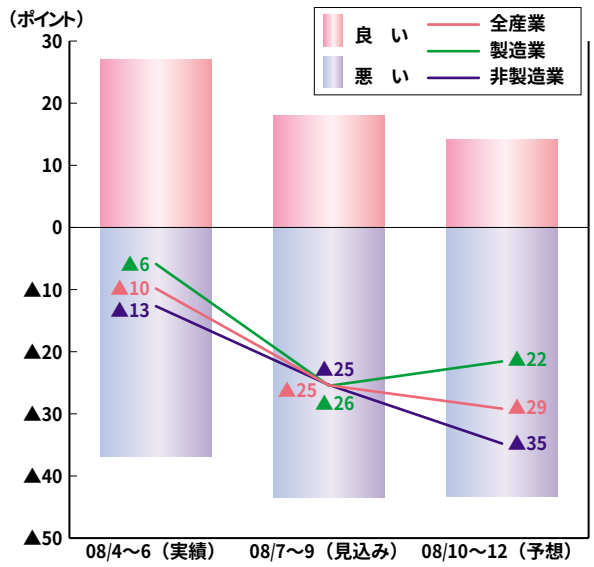
＜非製造業＞

非製造業の主な業種について４～６月期の実績をみると、建設業は11でプラス実績となりました。しかし、７～９月期以降は、売上減少や材料価格の高騰等により▲17→▲33と、マイナスへ転じる見込みです。卸売業は、４～６月期以降55→±０→±０とプラス実績を維持する一方、小売業は、仕入れ価格上昇分の小売価格への転嫁が進んでいないことなどから、４～６月期以降▲62→▲15→▲50と、低水準での推移となる見込みです。ホテル・旅館業は、宿泊客の減少による資金繰りの逼迫等により、４～６月期以降▲67→▲83→▲80と、先行き非常に厳しい状態が続く見込みです。サービス業は、原材料費の高騰の他、雇用過剰による人件費負担の増加等により▲40となりました。７～９月期以降も▲70→▲60と、今後さらにマイナス幅が拡大する見込みです。

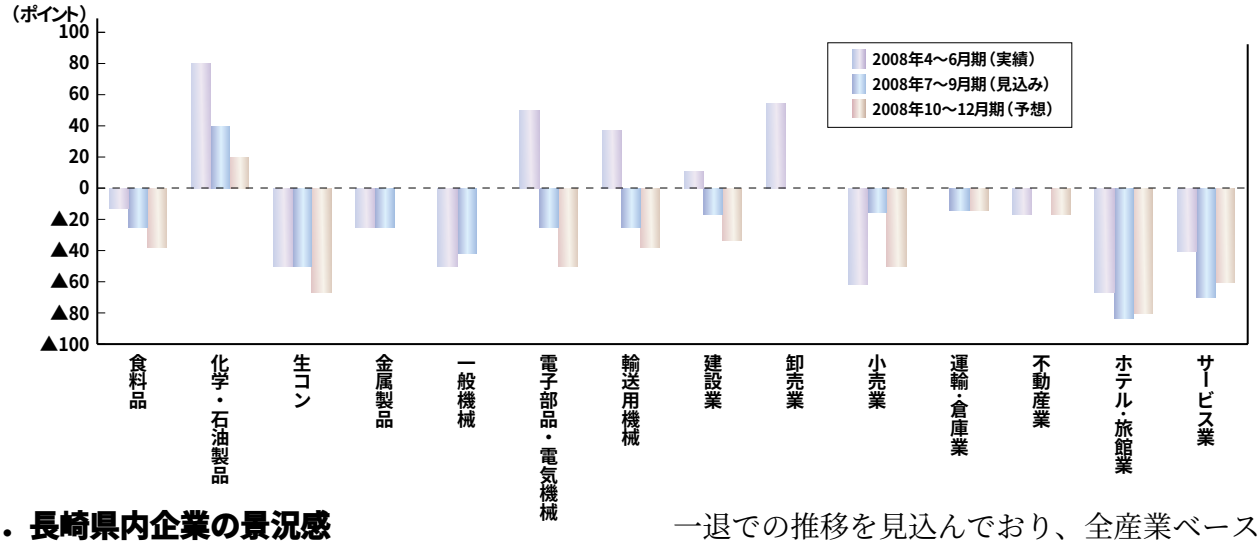
熊本県の回答企業の業種別構成

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	51	41.8
食料品	8	6.6
化学・石油製品	5	4.1
生コン	6	4.9
金属製品	8	6.6
一般機械	12	9.8
電子部品・電気機械	4	3.3
輸送用機械	8	6.6
非製造業	71	58.2
建設業	18	14.8
卸売業	11	9.0
小売業	13	10.7
不動産業	7	5.7
運輸・倉庫業	6	4.9
ホテル・旅館業	6	4.9
サービス業	10	8.2
合計	122	100.0

熊本県内企業の業況ＢＳＩの推移



熊本県内企業の業種別業況ＢＳＩの状況



３．長崎県内企業の景況感

長崎県内企業では、輸送用機械を中心とする機械関連産業では旺盛な海外需要を背景に好調だったものの、公共工事の減少が続く建設業や個人消費の低迷が続く小売業など、非製造業の多くの業種でマイナス実績となり、非製造業が全体を押し下げる形となった。

長崎県内企業の景況感を、業況ＢＳＩを基にみると、全産業ベースで４～６月期実績▲26（１～３月期比▲５）と、前回実績と比べて悪化しました。

製造業と非製造業とに分けてみると、製造業は４～６月期実績▲19（同＋５）と、マイナス幅が縮小しました。製造業を業種別にみると、鉄鋼・非鉄や金属製品、輸送用機械などで堅調に推移した他、一般機械や電気機械でも大きく改善しプラスへ転じたため、製造業全体の景況感は改善しました。

一方、非製造業は、漁業と不動産業を除く全業種でマイナス実績となっており、４～６月期実績▲29（同▲９）と、１～３月期と比べて大幅にマイナス幅が拡大しました。非製造業を業種別にみると、漁業や不動産業でプラス幅が拡大したものの、建設業や運輸・倉庫業サービス業などで大幅に悪化し全体を押し下げたため、非製造業全体の景況感は悪化しました。

先行きの景況感については、製造業で４～６月期以降▲19→▲23→▲17、非製造業で同▲29→▲34→▲30と、製造業、非製造業ともに一進一退での推移を見込んでおり、全産業ベースでは同▲26→▲30→▲25と、低水準で推移する見込みです。

このように、４～６月期における県内企業の景況感は、製造業で僅かに改善する一方、建設業や運輸・倉庫業などを中心とした非製造業でマイナス幅が大きく拡大したため、全産業ベースでは１～３月期と比較して悪化しました。７～９月期以降は、製造業、非製造業ともに一進一退で推移するものの、業況ＢＳＩの水準そのものは低く、当面は、回復感に乏しい、厳しい状態が続くものと判断されます。

長崎県の回答企業の業種別構成

業種	回答企業数	構成比（%）
製造業	114	32.3
食料品	17	4.8
繊維製品	8	2.3
窯業	4	1.1
土石	22	6.2
鉄鋼・非鉄	8	2.3
金属製品	10	2.8
一般機械	7	2.0
電気機械	4	1.1
輸送用機械	13	3.7
その他製造業	21	5.9
非製造業	239	67.7
漁業	8	2.3
建設業	57	16.1
卸売業	48	13.6
小売業	48	13.6
運輸・倉庫業	25	7.1
不動産業	7	2.0
ホテル・旅館業	16	4.5
サービス業	27	7.6
その他非製造業	3	0.8
合計	353	100.0

業種別にみた業況ＢＳＩの特徴

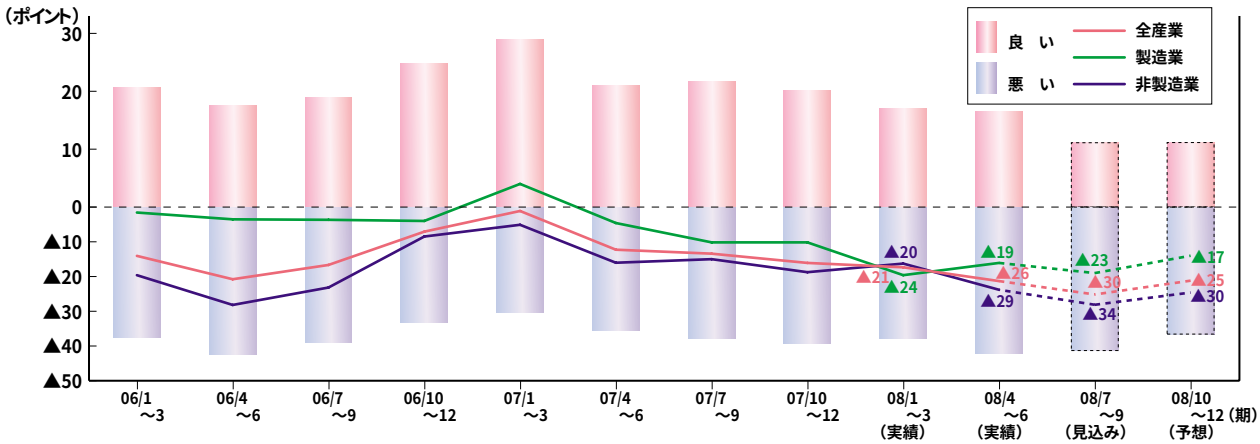
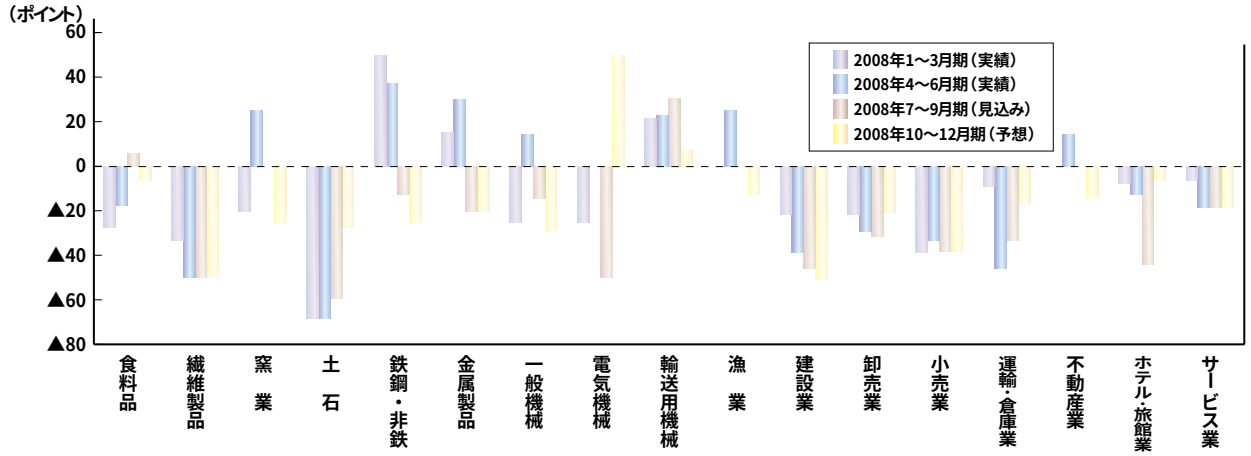
＜製造業＞

製造業の主な業種について４～６月期の実績をみると、輸送用機械は23(１～３月期比＋２)と堅調に推移しています。７～９月期以降は31→８と、先行き、プラス幅が縮小する見込みです。鉄鋼・非鉄は38(同▲12)とプラス幅が縮小したものの、業況が悪いとする企業はなく、好調さを維持していると判断されます。しかし、７～９月期以降は▲13→▲25と、原材料費の高騰等により採算が悪化しマイナスへ転じる見込みです。一般機械は、売上数量の増加及び単価上昇により14(同＋39)と、プラスへ転じました。７～９月期以降は▲14→▲29と、再びマイナスへ転じる見込みです。電気機械は、売上増加などに伴う採算の好転により±０(同＋25)とマイナス幅が縮小しました。７～９月期以降は▲50→50と、一進一退で推移する見込みです。

＜非製造業＞

非製造業の主な業種について４～６月期の実績をみると、建設業は、受注状況の低迷や材料資材の高騰などにより▲39(同▲18)と、大幅に悪化しました。７～９月期以降も▲46→▲51と、一層厳しさが増す見込みです。小売業は、４～６月期以降▲33(同＋６)→▲38→▲38と、依然として厳しい状態が続く見込みです。卸売業は▲29(同▲８)とマイナス幅が拡大しました。７～９月期以降▲31→▲21と、低調に推移する見込みです。運輸・倉庫業は、燃料費の高騰などにより▲46(同▲37)と大幅に悪化しマイナスへ転じました。７～９月期以降は▲33→▲17と、幾分厳しさが和らぐ見込みです。ホテル・旅館業は、稼働率の悪化や原材料費の高騰などにより▲13(同▲５)となっています。７～９月期以降は▲44→▲６と、一進一退で推移する見込みです。

長崎県内企業の業況ＢＳＩの推移



長崎県内企業の業種別業況ＢＳＩの状況